

「雲仙仁田峠プレミアムナイト」外国人への発信

長崎県からの依頼によりプロモーションアドバイザーである株式会社クリップの代表取締役 島田昭彦氏（以下「アドバイザー」）を長崎県雲仙地区に派遣しました。

雲仙では春・夏・秋の期間限定で「雲仙仁田峠プレミアムナイト」というツアーイベントを開催しています。現在の参加者は日本人が中心ですが、外国人の方でも楽しんでいただけるイベントにするにはどのようにしたらよいかという課題を抱えており、8月と10月の計2回、アドバイザーを派遣し、視察と地元関係者との意見交換会を行いました。



イベント運営関係者との意見交換会

「雲仙仁田峠プレミアムナイト」は普段夜間の通行が禁止されているエリアに特別に入ることができるプレミアムツアー。期間限定、人数制限ありのツアーですが、満天の星空、四季に応じてミヤマキリシマや紅葉、天の川などを見ることができるなど、「プレミアム」「特別感」をアピールし、ファンを増やしています。



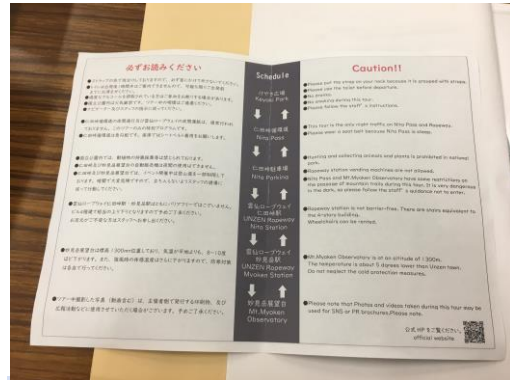
夏の星空と夜景



秋の紅葉のライトアップ

誰に何を伝えたいのかを的確に（夏のプレミアムナイト）

ツアーにはガイドが同行し、雲仙の自然や歴史の説明、山での注意事項などを案内するなど、参加者と日本語を使ってコミュニケーションをとることが欠かせません。特別自然保護区を散策するため注意事項は明確に参加者に伝えなくてはならず、またツアー中、疎外感を与えないためにも何か工夫はできないかと模索しているとのことです。



しおりの試作品

注意事項等を確実に伝え、また旅の思い出として持って帰ることもできるよう「旅のしおり」を試作。日本語と英語で表記してあり、ツアー行程やツアー中の禁止事項などが盛り込まれています。アドバイザーからは、「しおりに要素を詰め込みすぎているので、誰に何を伝えるものかを明確にしたほうがよい。」「注意書きは、しおりとして持って帰る必要はないので、バスの座席ポケットに入れるなど、しおりに掲載する情報を整理するとよい」と助言がありました。また、ガイド中、簡単な英語はできたほうがよいが、その他の部分は絵や写真を見せるなどして説明すれば、言語がわからなくてもイメージができること。ガイドが説明する時間と自由におしゃべりをする時間を区切って、説明する際は話をしないように事前にアナウンスすればトラブルにもなりにくいことなどを述べられました。その他、参加者から「どこまでおもてなしをすればよいかわからない」という意見があり、島田アドバイザーは「良いおもてなしをするには、良いおもてなしを受けなければいけない。自分で外に出て、色々なことを体験するのが一番良い」と強調されました。

拡散したくなる仕組みづくりが重要（秋のプレミアムナイト）

秋のプレミアムナイト視察の時は、平日のツアーにも関わらず、参加者はほぼ満席の状態。関東など九州外からの参加が半数を占めていました。出発の際のお見送り、道中での演出など、地元が一丸となってツアーを盛り上げている様子がわかり、島田アドバイザーも「参加者の満足度が高いのも納得」との感想。展望所では星空解説や紅葉した山の斜面のライトアップなども見どころもある中、写真を撮ったり、ゆっくり景色を楽しむ時間も取られており、満喫できるツアーとなりました。



展望所で景色の説明をするナビゲーター(ガイド)

アドバイザーから、ツアーを体験しての気付きや課題が伝えられ、一番の課題として挙げられたのは、事前の広報、PRが難しいという点でした。夜のイベントということで、ライトアップされた紅葉や星空が印象に残るツアーだったのですが、特に星空についてはスマートフォンでの撮影が難しく、現在は参加者が夜景や紅葉をまばらに投稿している状況となっています。参加者がSNSに投稿しやすいように、イメージとなる写真が取れるスポットがあることが望ましいのですが、星空の撮影は本格的な準備が必要であるため困難。そこで、意見交換に参加した観光協会の広報担当者から、「事務局が持っている写真データなどを配布するのはどうか」という意見が挙がりました。アドバイザーからは、「参加者の満足度は大変高いイベントであるので、口コミが広がるようにデータを渡すのはいいアイデアである」と述べ、できるだけ早く実施できるように準備することとなりました。外国の参加者対応はもちろんですが、国内外の参加者が楽しめるよう、さらなる磨き上げに期待したいと思います。

クレアでは、自治体のプロモーションの企画段階において相談対応や専門的な助言・情報提供を行うプロモーションアドバイザー制度の申し込みを随時受け付けております。セミナー講師としてのアドバイザー派遣も行っておりますので、まずはお気軽にご相談ください。

(経済交流課 渡辺)

